

Environment

環境

トピアグループは、地球環境を持続可能な状態に保つことが人類にとって最も重要な課題であると強く認識しています。事業活動を通じて、環境負荷の低減に積極的に取り組み、地球と人類の未来に貢献していきます。

環境保護委員会の取り組み

環境保護委員会は、ISO14001：環境マネジメントシステム(EMS)の維持推進とエネルギー管理を重要なミッションとしています。EMSの運用強化やエネルギー使用量の調査・改善を進め、温室効果ガスの削減に努めています。



ISO14001登録証

環境パトロールの実施

毎月、環境・安全・5Sの観点から環境パトロールを実施し、その結果を全社で共有するとともに、是正・改善策を迅速に実行し、職場環境の維持と意識向上に取り組んでいます。

さらに、工場ごとの電力使用量の実績や推移を把握し、エネルギー管理士の助言を得ながら、エネルギー消費の見える化や省エネ活動の活性化を図っています。



環境パトロール

環境関連法規の遵守

トピアグループは、廃棄物処理法、労働安全衛生法の化学物質規制、騒音・振動規制法、フロン抑制法、地球温暖化対策法など、関連する環境法規を把握し、遵守体制の維持・強化に努めています。社内パトロールや、内部・外部監査を通じて遵守状況を定期的に確認し、法令違反の未然防止と継続的な改善を推進しています。

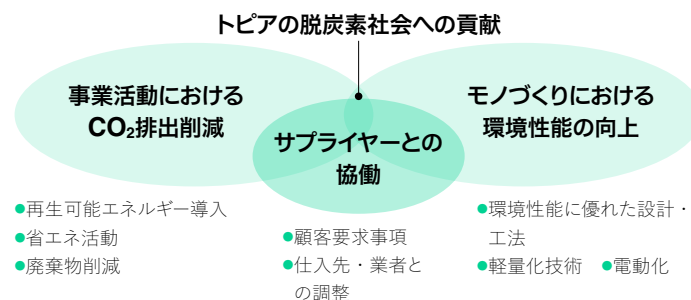


エネルギー管理士による診断

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループは、地球温暖化の進行により気候変動によるリスクが高まる中、脱炭素社会の実現が企業にとって重要な使命と位置づけています。気候変動対策を重要な責務と捉え、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。グループ内の再生可能エネルギーの導入推進や生産工程の見直しに加え、サプライチェーン全体での環境負荷低減を目指していきます。すべてのステークホルダーとの協働を通じ、「社会と共生する企業」として、次世代に誇れる社会を築くべく持続可能な価値創出を目指すとともに、カーボンニュートラル社会の実現に挑戦し続けます。



再生可能エネルギーの導入

トピアグループは、工場で使用するエネルギーの一部を再生可能エネルギー由来とすることで、温室効果ガス排出量の削減を進めています。国内主力となる鈴鹿本社工場では、自家消費型の太陽光発電設備を順次増設し、2025年度には約860t-CO₂の温室効果ガスの削減を図りました。今後も継続して自社拠点に太陽光発電設備などを設置し、2030年度までに再生可能エネルギーによるCO₂削減量を高め、環境負荷の低減とBCP（事業継続計画）への対応を両立する体制の構築を推進していきます。これらの取り組みを通じて、持続可能な未来への責任を果たし、社会から信頼される企業を目指します。



太陽光発電設備

工場における省エネ推進活動

省エネ推進活動を通じて、エネルギー管理士の提案や指導をもとに、工場内の省エネルギーに取り組んでいます。具体的には、空調設備や生産設備の効率向上、コンプレッサーの設定圧力および運転時間削減、工場内のエアリーク調査・補修、エアリーク配管システムの改善など、エネルギー消費の最適化を図っています。さらに、本社のEMS推進担当やエネルギー管理士が国内各事業所・営業所を訪問し、継続的な改善活動を支援するとともに、全体でのCO₂削減活動を推進しています。また、全従業員が自主的に環境に配慮した行動を実践できるよう指導・教育にも力を入れ、日々の業務における省エネ意識の向上を目指しています。



エアリーク調査

循環型経済の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループは、行動指針の中に「循環型社会構築への貢献」を掲げて、環境負荷低減を目指した効率的な資源活用やリサイクルを推進しています。限られた資源を有効に利用するため、原材料の投入量を抑制する生産設備の導入をはじめ、資材の再資源化を通じて、製造過程で発生する廃棄物の抑制に取り組んでいます。



試作金型に使用する材料の循環

プレス成形金型には、量産部品を製作する量産金型と試作部品を製作する試作金型があります。量産金型は鉄、鋳物などの硬い素材を使用しますが、試作金型の場合、柔らかい亜鉛合金材(ZAS)を用い、自社の溶解炉にて鑄造しています。ZAS鑄造は、創業当初より自社で行い、ZASの再利用も継続しています。

また、鑄造工程で必要となる砂は、硬化剤の影響で固形となるため、従来は産業廃棄物として処理していましたが、2012年に鑄造用砂攪拌機を導入し、砂の再利用を現在も継続して廃棄物削減に寄与しています。



鑄造用砂リサイクル用攪拌機

ペットボトルキャップの回収活動

当社では、環境保護と社会貢献の両面からペットボトルキャップの回収活動を実施しています。回収したキャップはリサイクル資源として有効活用されるとともに、その換金収益は開発途上国の子どものワクチン支援に充てられています。資源循環の促進と社会的課題の解決を両立した取り組みとして、持続可能な社会の実現に貢献しています。

4年間の本活動を通して、ペットボトルキャップを累計で415kg回収しました。これにより、208人の子どもたちにワクチンを届けることができました。



ペットボトルキャップ寄付証明書